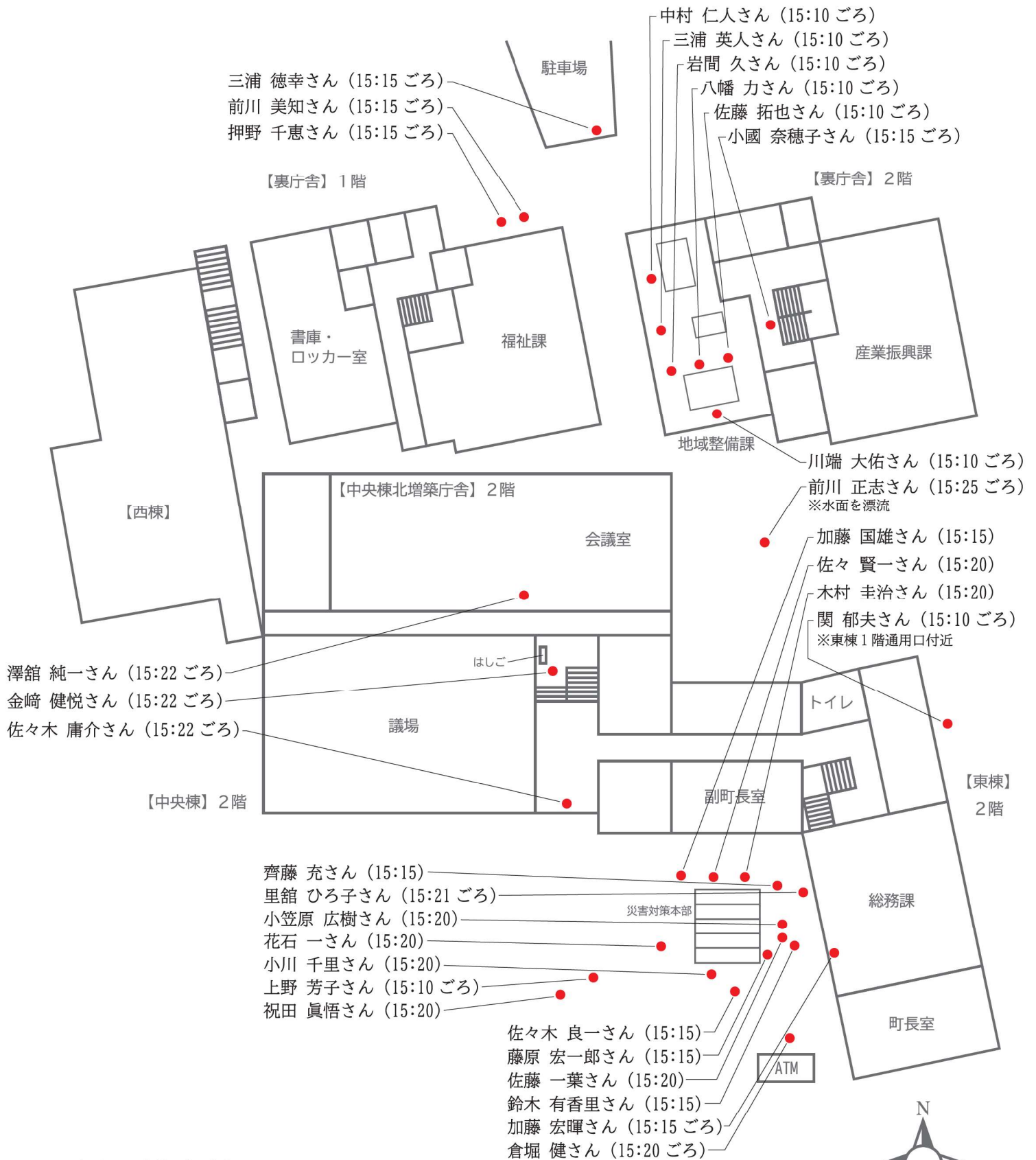


第2章 最終目撃情報のまとめ

現時点で分かる犠牲職員の最後の目撃情報や類推される行動を改めて書き起こします。

犠牲職員の推定最終目撃地点（庁舎建物内外）



犠牲職員の推定最終目撃地点（町内）



津波到達推定時刻 = 15:21

※かっこ内は推定目撃時刻

※地図データは震災当時

1 町長

町長の加藤宏暉さんは午後3時15分過ぎ、潮位計を観察していた東棟2階の総務課から庁舎前の災対本部に下り、総務課に残った伊藤正治教育長と潮位計の数値をやり取りしていました。前後して災対本部のテーブルで、総務課長の澤舘純一さん、企画財政課長の木村圭治さん、町民課長の佐々賢一さんと町の白地図を見ていました。

2 総務課

総務課長の澤舘純一さんは津波襲来時、中央棟玄関か東棟玄関から2階に駆け上がり、水をかき分けながら中央棟北増築庁舎の会議室に入ります。出入り口に近い長机に上がってすぐ、津波に巻き込まれました。

総務広聴班主任の藤原宏一さんは推定午後3時15分撮影の写真⑨(35ページ)で、災対本部前で職員用防災手帳に見入っていました。この前後、写真を撮っていた

た三浦義章・同班主事は藤原さんと親しく会話した記憶があります。

総務広聴班主事の小笠原広樹さんは推定午後3時20分撮影の写真⑭(44ページ)で、災対本部の災害発生即応対応表の前に同班主事の佐藤一葉さんと並んで立っています。この前後、同表に情報を書き込もうとする四戸直紀・同班主事の手が震えるのを見かね、ペンを受け取りました。

総務広聴班主事の佐藤一葉さんは津波の後、よく似た人物が本庁舎北側周辺の水面でベランダのような物につかまって流されていました。

職員情報班主事の齊藤充さんと花石一さんは津波のほぼ1分前、城山方面に向かって歩き始めました。花石さんは住民情報の記録された磁気テープを携えていました。2人は末広町近辺で被災した可能性があります。

3 企画財政課

企画財政課長の木村圭治さんは推定午後3時20分撮影の写真⑬(44頁)で、災対本部のテーブルに町民課長の佐々さんと並んで着いていました。佐々さんは震度が印字されていると思われるロール紙を読み込み、木村さんは隣でノートに記入しています。

財務班主事の鈴木有香里さんは推定午後3時15分撮影の写真⑩(36頁)で、同課のある東棟の玄関付近に立っています。その前の時間帯に同じ場所で不安げな表情を浮かべたり、泣いたりしているのを複数の職員が目撃しています。

4 税務会計課

税務会計課長の祝田眞悟さんは御社地ふれあいセンター前で確定申告の来場者や町民を避難誘導した後、推定午後3時20分撮影の写真⑫(42頁)に納まり、中央棟玄関前で町民課国保年金班長の里館ひろ子さんと

対面しているようでした。

課税班主任の上野芳子さんは午後3時5分ごろに用務先の御社地ふれあいセンターから徒歩で役場に戻った後、町内に住む親戚の安否を確認しに、いったん出て行きました。親戚は当時大町在住の伯父三浦幸之助さん(2015年に逝去)で、上野さんが役場を出た時間帯はデイサービスに出掛けていて不在でした。三浦さん宅では三浦さんの長男夫妻と上野さんの母ヒデさんが合流し、城山に向かって避難した後でした。

主幹兼出納班長の佐々木庸介さんは庁舎前で津波の襲来を大声で告げた後、中央棟の階段を上り、2階の窓から海の方角を見ていました。

5 町民課

町民課長の佐々賢一さんは、東棟2階総務課の潮位計を見て「吉里吉里漁港は潮位2.40」と窓の外の災対本部に伝えるのを、森田英之・課税班主任が記憶しています。時間帯は、災対本部で企画財政課長の木村

さんと並んで写真に納まる午後3時20分ごろより前だと考えられます。

主幹兼町民生活班長の金崎健悦さんは津波襲来時、屋上に通じるはしごの下で女性職員が上がるのを手伝っていたのが目撃されています。

町民生活班主任の加藤国雄さんは推定午後3時15分撮影の写真⑦(34頁)で、机やいすを運ぶなど災対本部の設営に従事していました。加藤さんは用務先の安渡地区の漁協から午後3時前に役場に戻っていました。

主任主査国保年金班長の里舘ひろ子さんは津波の直前、庁舎前に入ってきた岩手東海新聞記者佐々木正樹さんの車に駆け寄った後、炊き出しの準備をしてくると言って自家用車をそばに止めた東棟に入っていました。里舘さんは前年のチリ地震津波でも城山の中央公民館で炊き出しを陣頭指揮していました。

6 福祉課

福祉課長の関郁夫さんは地震の後、須賀町の自宅で防災服に着替えてくると言って役場を出た後、職員駐車場で義弟と出会っています。義弟は役場に入る関さんを見ていました。午後3時15分、長女からの安否確認の携帯メールに「役場にいる」と返信しました。

介護班主事の倉堀健さんは災対本部担当の職員で、津波の少し前、本部を城山に移そうとする中枢の意向を察し、城山方面に歩き始めたようでした。

主任主査地域包括支援センター班長の阿部久美子さんと社会福祉士の小笠原裕香さん、臨時職員の岩間成子さんは、用務先の釜石市から公用車に同乗して役場に戻る途中、大念寺付近の県道で避難誘導中の材津祐貴・同課介護班主事と阿部さんとのやり取りがあった後、末広町で津波に巻き込まれました。

臨時職員の菊池則子さんは課員が避難を開始した午後3時ごろ、末広町の自宅に行き、母親を軽自動車での同町の蓮乗寺に避難させた後、役場に戻ると言い残して母親と別れました。

7 産業振興課・畜産振興公社

産業振興課長の佐々木良一さんは午後3時過ぎに庁舎前から裏庁舎2階の同課に行った後、再び災対本部に戻り、推定午後3時15分撮影の写真⑦(34ページ)などに写っています。

農政班主査の六串俊範さんと臨時職員佐野雅樹さんは、新山牧場に除雪用のトラクターを置いてきた町畜産振興公社職員の兼澤圭作さんを、六串さん運転の公用車で迎えに行きました。午後3時10分過ぎ、町方の県道大槌小槌線を走る車を複数の職員が目撃しています。佐野さんは後部座席にいて、兼澤さんは助手席でグレーのキャップをかぶっていたと、車ですれ違った関貴紀・同班主査は記憶しています。車が津波襲来前に役場に到着できる時間的余裕はあったと思われるのですが、役場周辺での3人の目撃証言は得られませんでしたが。

一方、津波の翌朝、同じ車が運転席と助手席のドアが開いた状態で、新町の県立大槌病院南側の公道の路肩に止まっていたとの情報があります。目撃した那須

智・総務課職員情報班長は、どこかで乗り捨てられた車が現場に漂着したような印象を持ったといいます。

8 地域整備課

裏庁舎2階の地域整備課は前述のように、当日出勤していた13人中11人が犠牲になりました。管理班の小國楨也、久保晴紀の両主事が指示を受けて城山に出発した午後3時10分過ぎの時点で、災対本部にいた課長の小川千里さんと、施設点検に備えて駐車場に下りていた工務班主査の三浦徳幸さんを除く9人が在室していたとみられます。

その後に管理班主事の前川美知さん、臨時職員の小國奈穂子さんと押野千恵さんの女性3人が退出した可能性があり、もし三浦さん以外の工務班員が出勤していなければ、津波襲来時、男性6人が室内に残っていたかもしれません。小國、久保両主事は城山公園体育館の真下の坂道で渋滞のため停車し、車載の無線機から同課に連絡しますが、応答がありませんでした。こ

の時、すでに津波が到達していた可能性があります。

地域整備課長の小川千里さんは推定午後3時20分撮影の写真⑫(42ページ)で、ヘルメットと防寒着を着用して災対本部のテーブルの前に立ち、城山方面を指さして言葉を発する総務課長の澤舘さんに目をやっているようです。これより前に、中央棟玄関を入って行く姿が目撃されています。防寒着などを取りに隣接する裏庁舎に向かった可能性があります。

上席主査管理班長の三浦英人さんは午後3時過ぎ、城山の生涯学習課から城山公園トイレのシャッター開放を要請され、一時ためらいますが、久保・同班主事が判断を仰ぐと「鍵を届けてやってくれ」と指示します。管理班主事の前川美知さんは午後3時10分過ぎ、室内に張り出された模造紙に災害対応の経過を記入していました。津波の少し前と思われる時間帯に、臨時職員の前野さんと裏庁舎北側の玄関から出て行く姿が見られています。

管理班主事の中村仁人さんは午後3時10分ごろ、大槌浄化センターの管理業者の携帯電話に自身の携帯から安否や被害状況を確認するために連絡しています。

城山に出発する前の小國槇也・同班主事もそのやり取りを聞いていました。

主幹兼工務班長の岩間久さんは、津波が庁舎に達した直後の時刻と思われる午後3時22分に妻に安否確認のメールを送信しました。久保・管理班主事によると、本震の後、工務班員らと打ち合わせをしているようでした。

工務班主査の三浦徳幸さんは短くても午後3時10～15分、裏庁舎北側の駐車場で、ポンプ場などの公共施設の点検に出動するために公用車の脇に立っていました。この間、カーラジオで得た情報を周囲に伝えたり、ほかの職員と会話したりしていました。

工務班主任技師の八幡力さんと同班技師の川端大佑さんは、同課に残り続けていなければ、駐車場で同班主査の三浦徳幸さんと合流し、出動した可能性があります。大町雨水ポンプ場の電気設備を保守する高木電気管理事務所代表の高木正基さんは午後3時5分ごろ、同課の固定電話が話し中だったため、八幡さんの携帯電話に連絡を入れた記憶がありますが不通でした。

工務班主事の佐藤拓也さんは災害対応に備え、事務職として津波襲来まで同課で待機していたとみられます。

臨時職員の小國奈穂子さんと押野千恵さんは午後3時ごろに一時、同課の部屋を出たか、午後3時15分前後に何らかの指示を受けて管理班主事の前川さんと共に裏庁舎を後にした可能性があります。

9 議会事務局

主任主査監査班長の前川正志さんは本震の後、すぐに西棟から本庁舎に向かい、災対本部の設営に従事。津波にのまれた後、中央棟北増築部分の東側と東棟北側に挟まれた一帯を流され、屋上に逃れた職員たちが懸命に救助の手を差し伸べますが、引き波にさらわれてしまいました。

